

新宿歌舞伎町雑居ビル火災（速報）

はじめに

本報は、新宿雑居ビル火災に関する新聞報道やインターネットの情報等をまとめた速報である。9月1日午前1時ごろ、東京都新宿区歌舞伎町1丁目の地上4階、地下2階建て雑居ビル（延べ約500㎡）の3階防火戸付近より出火した。火災およびそれにとともなう煙は3、4階フロア全体におよんだ。焼失面積は、3、4階合わせておよそ160㎡。

82年のホテル・ニュージャパン火災の4%にも満たないが、死者数は同火災の33人を上回り、死者44名、重軽傷者3名を出す戦後5番目^{表1}の大惨事となった。火災当時、東京消防庁より、消防ポンプ車、はしご車など100台の消防車が出動・救助にあたった。同ビルの店舗は、避難する際の障害となる商品の放置など消防法に違反していた。

1．危険な建物構造と防火管理

1.1 典型的ペンシルビル

同ビルは鉄筋コンクリート造で、85年に建設、地下1階にカジノ、1階に風俗情報センター、3階に麻雀ゲーム店、2・4階に風俗店が入った雑居ビルである。間口はわずか5m、奥行き約16mの縦長の形状をしており、建築面積は約80㎡しかなく、階段は建物内の内階段1ヶ所のみ、いわゆるペン

シルビルである。こうしたペンシルビルの場合、経費はできるだけ切り詰め、防災設備も“最低限”となる。それに加え、階段は物置代わりとなるケースが多い。今回も例外ではなかった。

1.2 閉ざされた避難路

3階の麻雀ゲーム店は、奥に厨房があり、店内には25台のゲーム機が所狭しと置かれていた。唯一の逃げ道である内階段も各フロアの荷物で塞がれており、人1人が通れる幅しかなかった。さらに、同ビルの3階と4階には、設計上、窓（1m四方の小さいもの）と扉が3つずつあったが、通りに面した西側の壁面は広告が書かれたビニール製シートで一面覆われており^{図1}、窓には内側からは内装が施されていたため、窓は内外両面から塞がれていた。防火戸は設置されていたが、機能しなかった。

1.3 防火管理の実態

一方、東京消防庁では、同ビルについて、過去3回にわたって立ち入り検査をしている。直近の99年10月には、(1)防火管理者の未選任、(2)消防計画の未作成、未提出、(3)避難する際の障害となる商品の放置、(4)消火、避難訓練の未実施、(5)自

表1 戦後の主な大火災（死者数）

	発生年月日	場所	火災建物	死者数(人)
1	1973 / 11 / 29	熊本市	大洋デパート	124
2	1972 / 5 / 13	大阪市南区	千日デパートビル	118
3	1955 / 2 / 17	横浜市戸塚区	カトリック修道院	99
4	1980 / 11 / 20	栃木県藤原町	川治プリンスホテル	45
5	2001 / 9 / 1	新宿区歌舞伎町	明星56ビル	44
6	1982 / 2 / 8	港区赤坂	ホテル・ニュージャパン	33
7	1986 / 2 / 11	静岡県東伊豆町	ホテル大東館	24
8	1990 / 3 / 18	尼崎市	スーパー長崎屋	15

動火災報知設備や避難器具など消防用の設備の点検未実施、未報告、(6)自動火災報知設備の感知器の未設置、(7)避難器具の未設置、(8)誘導灯の未点灯の8項目にわたって不備を指摘している。しかし、このうち2000年2月に3階店舗から防火管理者の選任と消防訓練の実施の改善が文書で報告されたが、残りの6項目については改善されなかった。

2. 出火原因の調査・究明

2.1 出火原因の究明難航

新宿署捜査本部などの調べによると、当初3階エレベーターホールのガスメータにつながるガスの配管が途中で切れ、接続部のアルミ製留め口(直径20mm)が焼けて溶けていたことから、ガスメータ付近が火元と見られていたが、後の調べで防火戸近くに放置されていたゴミ袋やビール箱などが激しく燃えていたことわかり、火元は、防火戸付近との見方が強まってきた。

2.2 熱風と有毒ガスの発生

今回の火災では、窓から飛び降りて逃げた3人以外、全員が死亡している。火災当時、ものすごい熱風と大量の煙が3、4階に流れ込んだと見られている。被害者の大半は火災により発生したCOやシアンなどの有毒ガスを吸い込んだことが死因と見られている。

3. むすび

出火原因の究明、火災当時の状況の解明は今も続けられている。今後の調査に期待するものである。

(研究部研究第一グループ)

ペンシルビル

明確な定義はないが、1フロアに1テナント程度しか入っておらず、細長い形状の雑居ビルのこと。



図1 2人飛び降りて逃げた3階の窓
(4階の窓は、消防が救助のため開けた)

表2 火災と消防活動の概要

(消防庁発表の概要第14報 9月3日現在)

発 生	H.13 9/1 (土) 調査中	
覚 知	" 01時01分(119番による)	
延焼防止	" 02時14分	
鎮 圧	" 05時36分	
鎮 火	" 06時44分	
出火場所	新宿区歌舞伎町1丁目18-4 耐火4階建 地下2階地上4階 複合用途	
建物概要	建築面積 83.07m ² 延床面積 497.65m ²	
着 工	S 59年10月 1日	
使用検査	S 60年11月22日	
建物面積	B 2	76.78m ²
	B 1	74.60m ²
	1階~4階	82.43m ²
焼損程度	計160m ² 焼損(3・4階部分:各80m ²)	
死傷者数	死 者:44人(男32、女12) 負傷者:3人(男3)	
消防機関活動状況	(1) 東京消防庁 救急48、ポンプ・化学25、はしご4、 救助6、指揮車6、他12 職員 340名 消防団員 21名 (2) 消防庁の対応 01時40分 覚知、情報収集開始 02時00分 第1次応急体制 04時30分 第2次応急体制 05時30分 同庁に予防課職員を派遣 07時20分 現地に予防課職員を派遣 09時30分 消防庁長官が現地を確認 17時15分 第1次応急体制に変更	